

市町村の特色

市町村の規模

- 学 校 数 小学校4校 中学校2校
- 児童生徒数 約200名

本事例の特徴

授業や家庭学習で取り組むことができる市町村独自の教材の作成や系統性を踏まえた学習指導を目指した保育所、小・中学校、高等学校の学校間連携に取り組むことにより、基礎・基本の確実な定着を図っています。

実践のポイント

学力向上にかかわる教育行政推進上の重点

学校教育推進計画の策定

- 「新しい□□を創造する学びの連携」をテーマとした5か年を見通した計画の策定

調査結果の公表・活用

- 各学校における調査結果を踏まえた学校改善プランの改訂に係る指導助言

教育環境の整備

- 学校支援地域本部事業を活用した支援
- テレビのデジタル化等の施設・設備の整備

市町村独自の教材の開発

- 町で独自に作成した問題集の活用による基礎的・基本的な学習内容の確実な定着や、「□□検定」の実施に係る支援

「□□学」の実施

- 小・中学校及び高等学校における学習内容の系統性等を整理した「□□学系統表」に基づく総合的な学習の時間の支援

学校種間の連携

- 町教育研究会が主体となった保小中高の教員の研修への支援

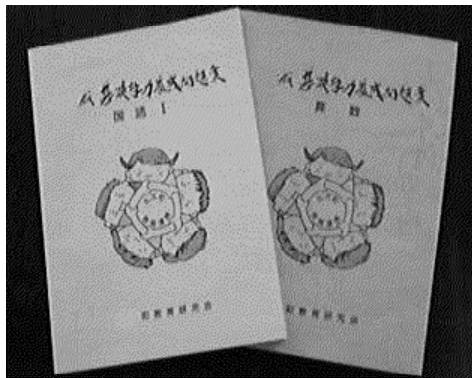
教育委員会の声

- 町内の保育園や各学校が連携して、教材を開発することにより、町ぐるみで学力向上に取り組む姿勢が年々強くなりました。
- このような学校の姿勢が地域住民にも伝わり、家庭、地域が学力の向上に関心をもち、学校の取組を後押ししてくれるようになりました。

市町村独自の教材の開発

- 町教育研究会において、「基礎学力連携部会」を設置し、教科サークルごとに、国語、算数・数学、英語の基礎学力養成問題集を作成するとともに、町内すべての小・中学生及び高校生に配布し、基礎的・基本的な知識・技能の育成に取り組んでおり、教育委員会ではこれらの取組を支援しています。

この問題集は、授業や家庭学習で活用され、特に、児童生徒が授業で学習したことを復習したり、つまづきを克服したりするなど、主体的に学習する習慣の形成に成果を上げています。



基礎学力養成問題集

子どもと一緒に挑戦しませんか？
平成20年度公開 検定実施日時
第1回 5月17日(土) 第2回 11月8日(土) 第3回 2月7日(土)
* 版「基礎学力養成問題集」に関しては最寄りの学校へ相談を

町内の全ての児童・生徒に基礎的な学力を身につけさせる共通教材。
②この教材を、小中高の教育課程連携の出発点に。
③この教材を、町の全小中高校で活用。使い方は学校の独自性を大切に。

「□□検定」の案内

学習の成果を確かめることを目的として、年3回、「□□検定」を実施するなどして、学習意欲の向上と基礎的、基本的な学習内容の確実な定着を図っています。

なお、この検定には町民も参加できるように案内が配布されています。

学校種間の連携

- 教育委員会では、「保小中高」の連携を教育行政執行方針の重点に掲げるとともに、町内すべての小・中学校及び高等学校が、「保小中高」の連携を学校経営の重点に位置付け、各学校種と連携を図った研修の充実等に積極的に取り組んでいます。

○ 教科等のサークルの編成

小・中学校教員に高等学校教員を加え、より専門的な内容を研修できるよう工夫するとともに、小・中学校の指導が高等学校に円滑に引き継がれるようシステムが確立されています。研修には保育所の保育士も参加します。

○ 総合的な学習の時間の指導計画の作成

小・中学校及び高等学校の学習内容の系統性を重視し、「□□学」として整理するとともに、児童生徒がこの町の観光大使や高山植物ボランティアガイドとして、学習の成果を発揮する機会を設定しています。



「□□学」の啓発リーフレット

市町村の特色

市町村の規模

- 学 校 数 小学校10校 中学校5校
- 児童生徒数 約2600名

本事例の特徴

放課後・長期休業を活用した「学力向上教室」の開催や退職教員を活用した小学生への学習指導などに取り組むことにより、授業以外の学習の機会や場を確保しています。

実践のポイント

学力向上にかかわる教育行政推進上の重点

放課後や長期休業の活用

- 放課後や長期休業中に希望者を対象にした「学力向上教室」の開催
- 「学力向上教室」における取組状況の教育研究大会での発表

調査結果の活用・公表

- 全国学力・学習状況調査の調査結果の分析による児童生徒の実態把握
- 学校改善支援プランの策定及び町の広報誌を活用した町民への啓発活動

教育環境の整備

- 特別支援教育支援員の重点配置
- 学校図書館の蔵書の充実

退職教員等の活用

- 長期休業中の小学生への学習内容や学習方法についての指導
- 地域のボランティアによる読み聞かせなどのコーディネート

地域との連携

- 地域が一体となって取り組む教育活動の機会の充実
・毎月19日を「教育の日」と制定

家庭との連携

- 青少年の健全育成を目指す、家庭教育に関する学習機会の充実

教育委員会の声

- 町内の各学校が「学校改善プラン」を見直す際に、すべての学校に重点的に取り組んでほしいこと（授業以外に学習サポートを行う機会を設定する）を積極的に働きかけ、実施できたことが、成果につながったと思います。
- 町教育委員会が、町内在住の退職教員等の皆さん（学び隊）の協力を得て、長期休業中に小学生を対象とした学習サポートを実施しました。子どもたちは、授業中、十分理解できなかった内容や確実に定着していない内容などが、分かったり、身に付いたりする喜びを感じていました。子どもと学び隊の皆さんが喜びを共有できる取組でした。

放課後や長期休業の活用

教育委員会の取組

- 教育委員会では、学校改善支援プランに「児童生徒一人一人の学習状況に応じた指導の充実」を重点事項として位置付け、町内の各学校に授業以外に学習サポートを行う機会を設定するように働きかけています。
- また、各校の取組の充実を図るため、「移動校長会議」において、授業参観をして各校の取組内容を理解したり、「〇〇町教育研究会」において各校の取組事例を協議・交流する場を設定するよう助言したりしています。このことにより、各校が工夫して取り組んだ成果が共有され、自校の取組に生かす動きが見られるなど、町内すべての学校が共に学力向上に向かおうとする意識が高まっています。

学校の取組

- 町内のA中学校では、放課後や長期休業中に「学力向上教室」を開催し、町教育研究大会で取組の成果を発信しました。
 - ◇期間 放課後及び冬期休業中の5日間
 - ◇対象 希望者～定期的に実施している教育相談の機会を活用し、一人一人の学習の状況に応じて参加を呼び掛けた。
 - ◇講師 A中学校の教師
 - ◇内容 生徒一人一人の学習状況に応じて、数学や英語の学習課題を準備し、繰り返し課題に取り組んだり、じっくりと考える時間を設定したりするなど、きめ細かな指導を行った。

退職教員等の活用

- 町教育委員会では、長期休業中に小学生を対象とした学習サポートを実施するため、町内の退職教員等による「学び隊」を結成し、補充的な学習を行っています。

- ◇主催 町教育委員会
- ◇期間 夏季、冬季休業中の各5日間
- ◇対象 小学校4～6年生
- ◇会場 町内の2会場
- ◇講師 町内在住の退職教員等
- ◇内容 児童は各自が持参した夏休みの宿題等に取り組み、学習内容を理解できないところや学習の方法などについて、退職教員等からアドバイスを受けながら学習しました。



市町村の特色

市町村の規模

- 学 校 数 小学校3校 中学校2校
- 児童生徒数 約250名

本事例の特徴

教育委員会による調査結果の分析に基づく学校改善支援プランの充実や教員の研修機会である教育研究所への支援に取り組むことにより、学校改善を進め、教育力の向上を図っています。

実践のポイント

学力向上にかかわる教育行政推進上の重点

学校改善支援プランの充実

- 教育委員会による調査結果の分析
- 改善の視点の明確化
・学力向上拠点形成事業の成果の活用

学習指導の充実

- 一人一人の子どもの学習状況に応じたきめ細かな指導の充実
- 長期休業を利用した学習など補足的な学習サポートの充実

教育環境の整備

- 児童生徒の特性を考慮した特別支援学級の設置と整備
- 特別支援教育にかかわる支援員の配置及び相談体制の整備

教育研究所への支援

- 教育研究の要としての「村研」の研究活動への支援と体制の強化
- 研究指定事業等への参画と各種研修会への参加の働きかけ

家庭との連携

- 児童生徒及び家庭における生活や学習の実態把握
- 学校評議員及び学校関係者による学校関係者評価の評価結果の活用と地域への啓発

学校支援地域本部事業の推進

- 学校支援地域本部事業におけるコーディネーターの実態把握と要望を踏まえた適切な支援及び対応による本事業の充実

教育委員会の声

- 教育委員会が学校の実態や状況を的確に把握し「公教育としてあるべき姿」を指導・助言することにより、村内の学校が自校の課題解決を含めた学校改善に取り組むようになりました。
- 調査結果は、これまで各学校が取り組んできた研究事業の成果であると思います。こうした成果が、教職員一人一人の自校の教育への自信と誇りを高めるとともに、学校が一丸となって教育の質の一層の向上を目指す取組につながっています。

学校改善支援プランの充実

- 平成17年度から3か年実施してきた「学力向上拠点形成事業」の研究成果をもとに、『一人一人の児童生徒に「知・徳・体」を同時進行でバランスよくはぐくみたい』という願いを大切にし、教育委員会がリーダーシップを発揮し、学校改善支援プランの作成を行っています。

児童生徒の実態把握の工夫

- 「学力向上拠点形成事業」の研究成果を活用
- 全国学力・学習状況調査の質問紙の分析
- 生徒指導連絡協議会による児童生徒の生活実態調査の活用

一人一人に身に付けなければならない力を学力はもとより、心や体の側面から総合的に把握するため、これまでの研究成果を活用したり、関係機関と連携して取り組んだりしています。

改善の基底

- 村としての「総合的な教育力」の向上
 - ・国語及び算数・数学をはじめ全教育活動を通じた学力向上
 - ・基礎的・基本的な学習内容の定着と活用能力の一層の向上

「総合的な教育力」を改善の基底としたことにより、全教職員が課題意識をもって授業改善に取り組んでいます。

検証方法の工夫

- 学校評価との関連を図るなど多様な検証
 - ・「学校経営評価」、「学校運営評価」の定期的な実施及び教育委員会への報告と公表
 - ・全国学力・学習状況調査結果及びNRT等の関連を図った検証

学力向上の取組について計画的・継続的に評価を行うことにより自校の取組の確かさを客観的に検証するよう努めています。

教育研究所への支援

- ○○村教育研究所の運営や研究の方向性について、教育長が教育行政執行方針と関連付けて助言することにより、教育研究所の役割が明確になり、各校の教職員が互いに連携して研究に取り組み、各校の授業改善に結び付けています。

○○村教育委員会

- 各校の交流の活性化に向けた事務局運営にかかわる指導・助言
- 教育研究所の運営にかかわる予算の確保
- 研究指定事業等の成果の活用
- 各種研修会参加の啓発

教育長が年2回の「村研集会」で全教員に今年度の研究の重点等について助言することにより、教育研究所の役割が明確になり、教員が主体的に研究に取り組んでいます。

○○村教育研究所

- 小中連携の充実に向けた組織体制の整備
- 各校の学校改善プランに基づく実践の交流
- 村研集会における各校教員による公開授業の実施
- 児童生徒の生活習慣等及び体力運動能力に関する調査の実施と分析

「村研」の研究集会等では、各校の教員の「学校改善支援プラン」に基づく研究が行われるようになり、小中連携や学校間の交流が活性化しています。

各学校

- 研究の重点に基づく授業改善
- 道徳の時間の充実
- 全校的な体力づくりの実践
- 学校支援地や本部事業コーディネーターとの連携の充実

「村研」の研究内容が、各校の授業改善や特色ある教育活動の充実に結び付けています。